

研究課題 学校関係者評価委員が評価活動に参画する手だてを試行し、その評価結果を学校改善に生かす取組に係る実践研究

学校関係者評価を活かしたよりよい学校づくり

札幌市立啓明中学校

I はじめに

学校の責務…質の高い教育を保障すること

1 本校における学校評価のねらい

「児童生徒がよりよい学校生活を送れるよう学校運営の改善と発展を目指す」ことが学校評価のねらいである。学校を取り巻く環境が日々変化し、学校はその変化に敏感に感じながら、質の高い教育活動を展開することが求められている。改正された学校教育法の規定に従い、学校評価はこのために行われる。

本校の学校評価のねらいは以下のとおりである。

- 学校評価を行い、その結果に基づいて学校運営の改善を図ることにより、教育水準の向上に努める。
- 保護者や地域の方々との連携・協力を推進するために、学校運営に関する情報をできる限り提供する。

2 昨年度の学校評価の結果を基にした改善点

本校では、学校評価等を通してこれまでに、「啓明祭」の休日開催や「合唱の会」のコンサートホールKitaraでの開催に改善した経緯がある。昨年度の学校評価については、以下に示す事項についての課題が明確となり、改善を図った。

- 実践目標の一つに「明るく元気の挨拶を交わそう」があるが、挨拶が更に明るく元気になるために、教職員が朝玄関前や通学路で挨拶を行うようにした。本校生徒のみならず小学生や地域の方々に対する挨拶もでき、とても効果的であった。
- 自己評価結果の数値としては低くはないが、生徒の授業への集中の状況に課題があった。このことにより、校内研修会や教科会で授業研究・研修が強化された。
- 生徒と保護者、教職員のアンケートを実施した後に、学校評価検討委員会が改善方策の方向性を研修会で示唆し、年度末反省につなげるようにしている。



II 本校の学校関係者評価

学校の役割と学校関係者評価委員の役割

1 これまでの取組の課題

本校では、平成22年度末に学校関係者評価の報告書を初めて作成し、設置者に報告した。これまでは、学校関係者評価委員会という明確に委員会として立ち上げることはせず、年度末に、学校評議員と校長、教頭、教務主任、学校評価担当教諭と懇談することによって、学校関係者評価の報告書をまとめていた。

しかし、学校評議員からいただく本校の教育活動に対するご意見やご指摘等は、大変内容の濃いものであり、次年度に向けての改善の指針となった。平成22年度の学校関係者評価の取組を通して、以下の課題が明らかとなった。

- 学校関係者評価委員会の開催期日やスケジュールが明確でなかった。
- 学校関係者評価についての意義や目的、期待、また、学校の役割と学校関係者評価委員の役割についての説明が不十分であった。

- 学校からの学校関係者評価委員に対する重点目標や自己評価の取り組み状況等の説明が不十分であった。

丁寧な説明と自己評価を適切に実施することが大前提

2 学校関係者評価の円滑な実施に向けた取組

平成23年度は、上記の問題点を改善して学校評価を推進した。特に、学校関係者評価は学校運営を効果的に行うための一つの手段であることを踏まえて、これが円滑に実施されるように、以下を基本的事項として推進した。

- ① 学校運営計画の中で、重点目標や取組内容、目指す生徒の姿や達成に向けた手段等が具体的に示されているので、これらを学校関係者評価委員会において、よりわかりやすく説明をする。その上で、スケジュール等の実施事項を説明する。
- ② 学校の自己評価を適切に実施することが大前提である。教職員が学校関係者評価に対して前向きな意識を喚起するために、研修の機会などを活用し学校評価の目的や意義について、教職員の意識や理解を深めることが大切である。

III 学校評価の一年間の流れ

| | 自己評価 | | | 学校関係者評価 |
|----|----------------------------|--------|--------|---|
| | 学校（教職員） | 児童生徒 | 保護者 | 学校関係者評価委員会等 |
| 4 | ○学校関係者評価委員会の構成の検討、依頼、依頼・委嘱 | | | |
| 5 | ○学校評価活動計画の策定 | | | |
| 6 | ○オリエンテーション・ガイダンス、取組状況の説明 | | | ○第1回学校関係者評価委員会 |
| 7 | ○学校関係者評価委員に学校を知ってもらうための活動 | | | ○第2回学校関係者評価委員会 ・授業参観、校内視察、教職員へのヒアリングも兼ねる |
| 8 | ・学校便りの送付 | | | |
| 9 | ・全日学校公開日の案内 | | | |
| 10 | ・陸上競技会、啓明祭、合唱の会等の学校行事の案内 | | | |
| 11 | | ○アンケート | ○アンケート | |
| 12 | ○学校評価に係る研修会 ○年度末校務反省 | | | |
| 1 | ○自己評価結果など学校関係者評価に必要な情報提供 | | | |
| 2 | ○評価結果の取りまとめ | | | ○第3回学校関係者評価委員会 |
| | ○評価結果の公表と報告 | | | ・学校関係者評価委員会としての評価結果の取りまとめ |
| 3 | ○評価結果の活用 | ○全校集会 | ○全校集会 | |

IV 学校関係者評価の具体

学校並びに学校関係者評価委員が負担感を感じないように…

学校が保護者や地域の方々に評価されることや、また、学校関係者評価委員が、学校評価に関連する業務に過度の責任を感じたり専門性の高い評価を求められて負担感を感じたりしてしまうと、継続性と実効性のある評価活動を行うことが難しくなる。

1 学校関係者評価を機能させる手だて

(1) 組織体制の工夫

現在、本校の学校関係者評価委員会は、3名学校評議員と校長、教頭、教務主任、学校評価担当教諭で構成されている。学校関係者評価を実施して間もない本校がこれを効果的に行うためには、本校に理解のある方々で、継続して本校の教育活動に協力していただいている方々を、委員としてお願いすることが望ましいと考えた。

(2) 委員選考に当たっての留意点

委員選考の検討は、学校関係者評価の具体的な第一歩となる。検討の観点としては、学校との関係性、協力性、構成人数、任期、属性のバランス等が考えられる。本校としては、以下の事項に留意している。

- 学校関係者評価等の活動を通じて、学校をよりよくするために教職員と協力し、活動に前向きに取り組む方策を考えていける存在であること。
- 互いの役割と責任を自覚し、連携に努めることができる存在であること。

(3) 学校関係者評価への働きかけの具体

実効性のある学校関係者評価の活動が行われるためには、学校関係者評価委員に学校の様子を知ってもらうことが重要である。

① 積極的に評価活動へ参画できるための工夫

- 依頼の段階で、評価活動の一環として学校訪問が位置付けられていることを理解いただいたで、担っていただく。
- 授業公開や学校行事など、機会があるごとに、学校から学校関係者評価委員に声をかけている。依頼時や第1回学校関係者評価委員会で年間スケジュールを伝え、日程が近づいたら、改めて連絡している。

② 来校機会・情報提供の回数

入学式、卒業式などの儀式のご案内の他に、授業公開や学校行事、全日学校公開日などを案内している。来校回数は概ね5回である。また、第1回学校関係者評価委員会において、下記資料の提示をしている。

- ・重点目標や計画、本年度の自己評価の評価項目などの取組状況
- ・前年度の自己評価・学校関係者評価の結果及び改善の状況

(4) 学校関係者評価の実際

学校関係者評価は、学校に点数をつけたり、査定をすることが目的ではない。学校に関係する方々の視点から、よりよい学校づくりに向けてのヒントを得ることが重要である。このために学校改善に生きる評価方法の検討が必要である。

① 評価方法等の説明

第1回学校関係者評価委員会として、委員が一同に介する最初の機会に目的や方法などについて共有することが大切である。以下の事項を説明した。

- 評価に先立ち、授業や学校行事の参観、施設・設備の観察について、十分な意見交換や対話を行う。
- 本校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた改善方策について評価することを基本とする。具体的には、以下の事項等を評価していただく。
 - ・自己評価の結果の内容が適切か
 - ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
 - ・学校の重点目標や自己評価の評価項目が適切か
 - ・学校運営の改善に向けた実際の取組が適切か

② 教育活動の成果と課題の明確化

学校関係者評価が、生徒の育っている姿や教職員の教育活動の様子や生徒と



積極的に学校の様子を知ってもらうこと



学校改善に生きる評価方法を

の関わりの下に実施されるようになった。このように、事実に基づいた評価は、成果や課題がより具体的で明確ものとなった。

学校関係者評価は自己評価の客観性や透明性を高める

2 学校関係者評価の結果から学校運営の工夫・改善につなげる方策

学校関係者評価は、次年度の教育課程編成に向けての改善に活用し、生徒のために活かされることが大切である。

(1) 学校関係者評価の結果から改善の方向を検討

学校の自己評価に加えて学校関係者評価が行われるようになり、自己評価の客観性や透明性が高まった。また、教育活動のすべてを網羅的に評価するのではなく、評価の視点を絞ることで、重点的な取組に対する意見を吸い上げることが可能となり成果と課題も明確となり、改善の方向性の検討も充実するようになった。

(2) 次年度の学校運営計画に反映した計画を報告

教育活動の成果や課題が明確になることで、教職員の年度末反省や次年度に向けての改善方策を含めた立案が円滑に行われ、次年度に向けての計画の報告も確かなものとなった。また、P D C Aの流れがより確実なものとなった。

V 自己評価及び学校関係者評価結果の公表

学校評価を公表することは保護者、地域への説明責任にもつながる

1 公表の方法

自己評価及び学校関係者評価の結果について、それを踏まえた今後の改善方策と併せて広く公表することが求められている。本校では、学校便りやホームページへの掲載、P T Aの諸会合や懇談会、学校説明会における説明により、広く内容が保護者や地域の方々に周知されるように留意している。

2 公表の効果

改善方策を明示することにより、学校経営のビジョンがより鮮明になり、保護者、地域の方々への説明責任が明確になることに公表の意義がある。併せて、学校の教育活動のP D C Aの流れを円滑にしていくことにもつながる。

学校関係者評価を実施して、以下のような成果と課題が挙げられる。

VI 成果と課題



1 成果

- 教職員とは異なった視点での評価であり、重要な評価である。
- 学校は、自己評価の成果や課題を掘り下げて分析することが可能となった。
- 生徒の成長の姿やこれに関わる教職員の関わりの姿等、本来の学校の営みを見ていただく機会が増え、教育活動の改善に活かせるようになった。

2 課題

- 今後、学校関係者評価委員の構成をどのようにしていくかである。任期、構成人数、属性のバランス等を考えていく必要がある。
- 実効性のある継続した活動であるために、この活動を形骸化せずに、目的や意義、役割や期待を自覚した評価活動を続けていくことが大切である。

【参 考 文 献】

- ・「学校評価ガイドライン〔平成22年改訂〕」 文部科学省
- ・「学校関係者評価を活かしたよりよい学校づくりに向けて
(学校関係者評価参照書)」 文部科学省

平成23年度 自己評価書及び学校関係者評価書

平成24年(2012年) 月 日
札幌市立啓明中学校

1 本年度の重点目標 ※「◎」は特に重点を置く項目

平成23年度実践目標 「潤いのある きれいな学校にしよう」
 「学びの場」にふさわしい環境、誰もが安心して生活できる環境をつくるために…
 ・明るく元気な挨拶を交わそう。
 ・ルールやきまりを守ろう。
 ◎「仲間」を大切にしよう。
 ・小さなことにも真剣に取り組もう。
 私たち教職員は《実践目標》を達成するために…
 ◎「潤い」は「心の豊かさ」から生まれ、そこから温かい人間関係が培われる。
 一人一人が安心して生活できる環境づくりをめざし、学校教育活動全般を通して実践目標のさらなる具現化を図る。
 ・「あいさつ」は社会生活の基本として、率先垂範、より一層習慣化を図る。

2 本年度の経営方針

- 1 生徒の自主性と自律性を培う学年・学級づくりの充実
- 2 全職員の創造性を生かした、また地域・生徒の実態に即した調和ある教育課程の創造
- 3 学校評価を活かした課題の焦点化と改善
- 4 「基礎・基本の定着」「表現力・コミュニケーション能力の向上」を図る指導法の工夫
- 5 「指導と評価」の一体化、より望ましい評価・評定の在り方の研究と実践
- ◎ 教師と生徒の信頼関係(ラポート)づくりを大切にする生徒指導の推進
- 7 生徒一人ひとりを大切にした特別支援教育の充実
- 8 豊かな心身の健康を育む、特別活動、道徳教育、健康教育の充実
- 9 「総合的な学習の時間」やキャリア教育を絡めた進路指導の充実
- ◎ 学校の発信力を高め、家庭・地域との連携を深める「開かれた学校」づくり

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

- 「A」…学校全体として、よく当てはまる。または十分達成されている。
 「B」…学校全体として、概ね当てはまる。または概ね達成されている。
 「C」…学校全体として、あまり当てはまらない。または不十分である。
 「D」…学校全体として、まったく当てはまる。または改善を要する。

| 分野 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|----------------|---|------|--|----------|---------|
| | | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 発信 | 学校全体の実践を見て、重点目標(実践目標)は学校や生徒の実態から見て適切である。 | A | 適切であったと考える。次年度もこの重点目標(実践目標)をより深化する方向で取り組む。 | | |
| | 学校全体の実践を見て重点目標(実践目標)の具体化に向けた教育課程が編成されている。 | A | 重点目標(実践目標)の共通認識は図られた。次年度は、この重点目標(実践目標)を教科等の指導計画にいかし落とし込めるか(目標を意図した具体的な指導)が課題である。 | | |
| | 授業公開・全日学校公開日(本年度改善)や懇談、学級・学校便りなどを通して本校の教育方針をわかりやすく保護者、地域に伝えている。 | A | 学校便り「啓明通信」のレイアウトを工夫したり、巻頭言執筆者を多様にするなどした。また、各学級便りの内容や発行回数も充実してきた。学校便りは月1回の定期的な発行を継続し、本校の教育活動を保護者、地域にお知らせしていく。 | | |
| | 保護者、地域、関係小中学校に学校を開放する機会をつくっている。 | A | 昨年度からの改善として、「全日学校公開日」を増やしている。生徒会行事日に主に設定した。次年度も広く学校を開放する機会を確保する。 | | |
| 学校関係者評価委員による意見 | | | | | |
| 関係性 | 各部・各学年が連携をとり、協力して教育実践に当たっている。 | A | 次年度も、「教職員間の連携」「共通理解に基づいた指導」「チーム力」をキーワードに実践していく。各部・各学年のリーダーを中心に協力・連携の強化を図りたい。 | | |
| | 教職員間の連絡を積極的にとり(職員室・会議・研修会等)、信頼関係に基づく教育実践に努めている。 | A | 本年度、職員室内での先生方の連携は図られていた。今後も、常に生徒の姿(成長・変容等)を職員室の話題とし、教育実践において教師相互が高め合える関係づくりを継続したい。 | | |
| 学校関係者評価委員による意見 | | | | | |
| 授業・評価 | 生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努めている。 | A | 活動のある授業、話し合いのある授業、教師の説明をしっかりと聞く授業など形態はさまざまではあるが、生徒一人一人が意欲的に参加できる授業づくりを目指す | | |
| | 生徒一人一人の学力の定着を目指した授業づくりを工夫している。学習の合い、板書、発問、教材・教具の開発など | A | 教科会の取組を充実させ、教師の授業力の向上を図っていく。生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実習得させるための「授業」をテーマとして研修を継続する。 | | |

| | | | | | |
|---------------------------|---|---|---|--|--|
| | 「思考力・判断力・表現力の向上」を図る指導法を工夫している。…問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした学習、グループ別指導など | B | 基礎的・基本的な知識・技能を活用して習得していく力であり、本校の研修テーマでもある。今後、生徒にはこれらの力の習得が求められるだけに、研修会、教科会等で研修を強化していくことが大切である。 | | |
| | 学力が定着していない生徒に対する手だてを図る工夫をしている。 | B | 放課後の教科相談、長期休業中の学習会等ができる範囲で今後も継続していく。また、授業において行える手だてを教科会で考えていくこと、さらに各教科での様々な取組を交流し広げたい。TT指導も充実させていく。 | | |
| | 本校のねらいを意識して、総合的な学習の時間の授業を行っている。 | B | 「総合的な学習の時間」については、キャリア教育を中核とした全体計画を整備し、「目標」「身に付けさせたい力」などを明確にして、全教職員で共通理解を図っていく。 | | |
| | 生徒の学習意欲の向上に生かせる評価評定の工夫に努めている。 | A | 絶対評価の主旨を理解し、より「妥当性」「信頼性」を高める評価の在り方を研究・研修する。「指導と評価の一体化」も研究・研修する。 | | |
| | チーム・ティーチング指導などにおける教員間の協力的な指導法を工夫している。 | B | TT授業の先進的な実践に学びながら、効果的なTT授業の在り方を目指して、TTを実施している教科会を今後も充実させていく。T1とT2との連携が図られてきたので、今後も継続する。 | | |
| 学校関係者評価委員による意見 | | | | | |
| 生徒理解・生徒指導 | 生徒に対して明るく元気な挨拶や声かけを意識している。 | A | 本校の実践目標の一つである。本年度も教職員・生徒ともに明るく元気な挨拶が行われていた。生徒、保護者は「挨拶」については大変肯定的な受け止め方をしている。次年度も継続していきたい。 | | |
| | 生徒に対して受容と共感に基づいた指導に努めている。 | A | 受容と共感は、本校の生徒理解の基本的な考えである。次年度以降も大切にしていきたい。これと関連した事と秋の「教育相談週間」を大切にしていきたい。 | | |
| | 大多数の生徒はきまりやマナーを守っている。 | A | 本校の実践目標の一つである。日常から粘り強く訴えていきたい。 | | |
| | 問題行動を防ぐための予防的な指導を行っている。 | A | 道徳などの時間を活用して予防的な指導を行ってきた。また、日常の学級担任等の話・説諭等も大切にしてきた。今後も継続していきたい。 | | |
| | 相談係やスクールカウンセラーと連携するなどして生徒の悩みや心配事を相談できるような配慮に努めている。 | B | 「校内学びの支援委員会」「スクールカウンセラー」が機能した年度であった。関係部署が連携を密に取り合い、効果的な相談体制や特別支援の体制を整えていく。 | | |
| 学校関係者評価委員による意見 | | | | | |
| 集団づくり | 学校では計画に基づいて道徳・特活指導が行われている。 | B | 標準時数を確保することができている。特別活動については時数増の傾向にあるだけに、内容の見直しを考える必要がある。道徳については、指導者と生徒の信頼関係をもとに心にしみる道徳指導を行いたい。 | | |
| | 仲間と大切にできる学級・学年づくりを大切にしている。 | A | 本校の実践目標の一つである。次年度は「関係性」をキーワードに実践していきたい。集団づくりの大切な観点としたい。 | | |
| | 小さなことにも真剣に取り組もうとする集団づくりに努めている。 | A | 本校の実践目標の一つである。次年度は「関係性」をキーワードに実践していきたい。集団づくりの大切な観点としたい。 | | |
| 学校関係者評価委員による意見 | | | | | |
| その他 | 「朝の読書活動」は生徒にとって有意義なものである。 | A | 実施3年目。とても効果的で定着してきた。次年度も踏襲する。 | | |
| | 部活動が生徒の自主的、自発的な参加により行われている。 | A | 自主的、自発的な活動が行われていた。部員の挨拶等も充実してきた。 | | |
| 学校関係者評価委員による意見 | | | | | |
| 学校関係者評価委員によるその他の意見 | | | | | |